

科目名	マクロ経済学		
授業形態	講義	学年	1
開講時期	2023年度 後期	単位数	2
担当教員	木谷 耕平		
内容および計画	<p>この授業では、マクロ経済学のより発展的なテーマについて学ぶ。経済では、経済活動の後退や拡大といった景気変動が発生する。景気の変動は我々の生活に大きな影響を与える（例えば景気後退時には失業が発生し、多くの人々の生活に影響する）。こうした景気変動がなぜ起こるのか、それに対してどのような政策があるのかを考察することが、この授業の中心的なテーマである。景気変動について学んだ後は、消費や投資がどのように決まるのかをより詳しく学ぶ。また、マクロ経済政策をめぐる論争についても紹介する。</p> <p>マクロ経済学基礎と同じく、この授業では理解を深めるため、適宜、問題演習に取り組む。なお、履修において四則演算より高度な数学の知識は必要ない（必要な場合、適宜授業内で解説する）。</p> <p>キーワード：景気変動、金融政策、財政政策、IS-LM 分析</p>		
1	イントロダクション：マクロ経済学の基礎知識の確認 前期に学んだマクロ経済学の基礎知識を復習する。		
2	短期の経済変動（1）景気循環に関する事実 経済は、産出量が低下し失業が増える「景気後退」をしばしば経験する。ときには、非常に深刻な景気後退である「不況」を経験することもある。この回では、こうした景気の変化には、どのような特徴があるのかを学ぶ。		
3	短期の経済変動（2）総需要と総供給 前期は主に長期のマクロ経済について学んだ。長期の経済の姿と短期の経済の姿は、どのように結び付けられるのだろうか。この回では、総需要と総供給のモデルを用いて、短期と長期のマクロ経済では何が異なるのかを学ぶ。		
4	短期の経済変動（3）財市場の分析 短期の景気変動を分析するモデルとして IS-LM モデルがある。IS-LM モデルは、財市場と貨幣市場の相互作用が総需要を決定し、その結果、短期における国民所得（GDP）の水準が決まることを示す。この回では、財市場でどのように国民所得が決定されるのかを学ぶ。		
5	短期の経済変動（4）貨幣市場の分析 利率は投資に影響を与え、投資の変化は総需要の増減によって国民所得に影響する。この回では、貨幣市場における需要と供給が利率を決めるとする、流動性選好理論について学ぶ。		
6	短期の経済変動（5）財市場と資産市場の同時分析 前々回および前回の講義では、財市場と貨幣市場について分析した。この回では、財市場と貨幣市場を同時に分析する方法である IS-LM 分析について学ぶ。		
7	短期の経済変動（6）IS-LM モデルによる景気変動の説明 IS-LM モデルでは、IS 曲線や LM 曲線がシフトすると、国民所得が変化する。つまり、景気変動が起こる。この回では、どのような出来事や政策によって、IS 曲線や LM 曲線がシフトするのかを学ぶ。		
8	短期の経済変動（7）IS-LM モデルと総需要曲線 IS-LM モデルは、物価が一定の短期における経済変動を説明することができる。ここでは、物価水準が変化する時、IS-LM モデルがどうなるのかを考察する。それにより、総需要と総供給のモデルのうち、総需要曲線がどのように導出されるのかを学ぶ。		
9	短期の経済変動（8）インフレ率と失業率の短期的トレードオフ関係 マクロ経済において、失業とインフレはどちらも私たちの生活に深く関係しており、常に注目されている。長期ではこの二つの間にほとんど関係はないが、短期ではトレードオフの関係にあることが知られている。この回では、この二つの指標が互いにどのような関係にあるのかを学ぶ。		
10	消費の理論 マクロ経済では、所得が変化しても、短期ではそれほど消費は変化しないが、長期では大きく変化することが分かっている。この回では、短期と長期の消費の違いを説明する理論として、相対所得仮説やライフサイクル仮説、恒常所得仮説について学ぶ。		
11	投資の理論 投資は、利率が上がれば減り、下がれば増えることをこれまでに学んだ。その背景にはどのようなメカニズムがあるのだろうか。この回では、投資の決定要因について詳しく学ぶ。		
12	マクロ経済政策論争（1）安定化政策 政府の政策立案者が、景気変動に対して積極的に対応すべきか、それとも受動的であるべきかを巡って		

	は、長い間議論がなされ現在も続いている。この回では、経済の安定化政策を巡る議論について学ぶ。安定化政策に賛成、反対それぞれの意見を紹介し、なぜ一つの立場をとることが難しいのかを考察する。
13	マクロ経済政策論争（2）ルールか裁量か 政策立案者が、様々な状況についての対応を前もって公表しておき、それに則って対応することをルールによる政策運営という。一方、政策立案者が、各時点において適切だと考える政策を選択することを裁量による政策運営という。この回では、ルールによる政策運営と裁量による政策運営を巡る論争について学ぶ。
14	マクロ経済政策論争（3）政府負債と財政赤字 安定化政策と同様、政府負債の経済的影響についても、これまで長い間議論がなされてきた。この回では、政府負債について、負債の算定の仕方や経済への影響など、様々な側面から考察する。
15	授業のまとめ この回では、この授業で学んだ内容を、練習問題を通じて改めて確認する。

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編（第4版）』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	9784492315200	2019

参考書

井堀利宏 『入門マクロ経済学 第4版』 新世社
 N・グレゴリー・マンキュー 『マンキュー マクロ経済学Ⅰ入門篇（第4版）』 東洋経済新報社
 N・グレゴリー・マンキュー 『マンキュー マクロ経済学Ⅱ応用篇（第4版）』 東洋経済新報社

成績評価

評価方法	割合(%)
期末試験	70
小テスト	30

- ・小テストは数回実施する。詳細は最初の授業で説明する。
- ・期末試験及び小テストは持ち込み不可。

学習到達目標

マクロ経済学基礎に引き続き、以下の3点をこの授業の到達目標とする。
 ①マクロ経済学の用語や考え方を理解し、説明することができる。
 ②マクロ経済学の考え方を現実社会の問題に応用し、分析できる。
 ③新聞記事やニュースの内容を理解し、批評することができる。

先修条件

マクロ経済学基礎を履修済みであること。

実務経験

実務経験あり：日本の政府系機関にて、発展途上国のマクロ経済及び債務持続性の分析に従事した。こうした経験から得た知見も踏まえて講義を行う。

その他

私語など、授業と関係のない行為は慎むこと。